

國學院大學學術情報リポジトリ

オンライン時代の神道研究と教育：
神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成：
21世紀COEプログラム

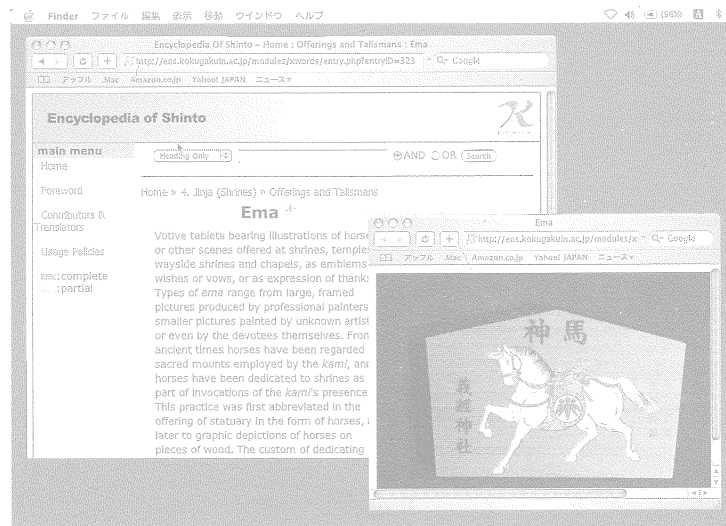
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 國學院大學21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): 170.4, 神道 シントウ キーワード (En): 作成者: 井上, 順孝, 色, 音, コベル, スティーブン, キンレ, ペトラ, 小松, 和彦, ビュテル, ジャン＝ミシェル, ベンテリー, ジョン・R, 國學院大學21世紀COEプログラム メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000505

21世紀COEプログラム
21st Century Center of Excellence Program

神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of
Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム（第4回）

オンライン時代の神道研究と教育



平成18年2月
國學院大學21世紀COEプログラム研究センター

21世紀COEプログラム
21st Century Center of Excellence Program

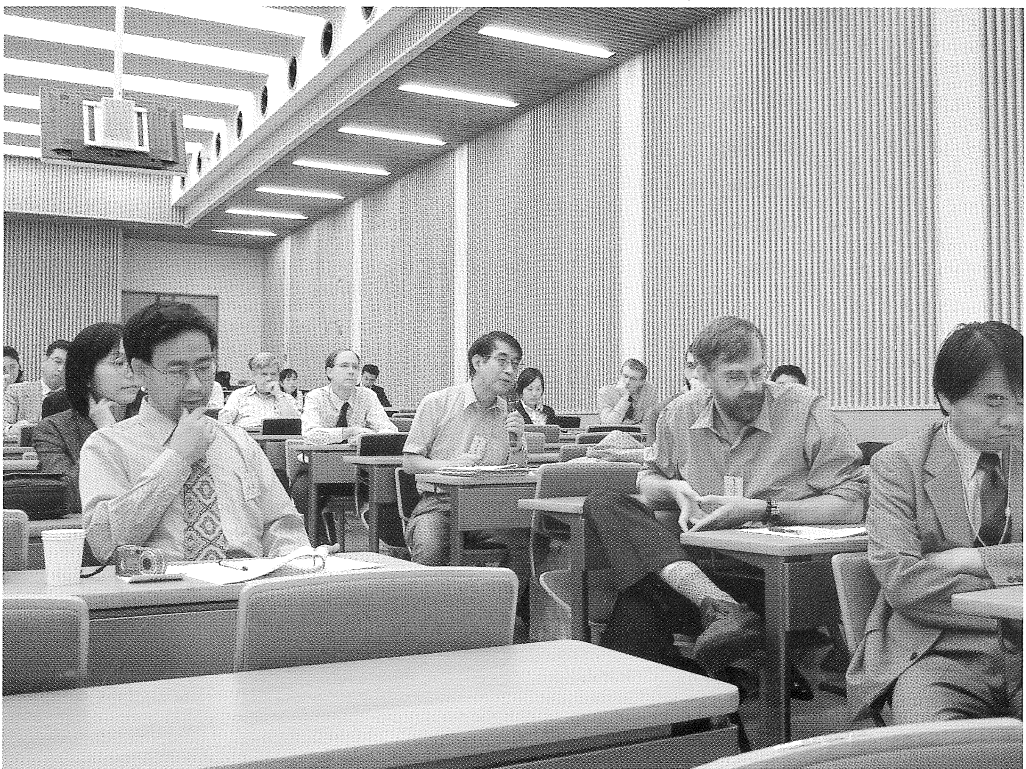
神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成
Establishment of a National Learning Institute for the Dissemination of
Research on Shinto and Japanese Culture

神道・日本文化研究国際シンポジウム（第4回）

オンライン時代の神道研究と教育

平成18年2月21日
國學院大學21世紀COEプログラム研究センター





目 次

はしがき	井上順孝（グループリーダー）	3
------	----------------	---

国際シンポジウム「オンライン時代の神道研究と教育」		
開会の挨拶	井上順孝	8

セッション1

司会：ノルマン・ヘイヴンズ（事業推進担当者）

〈発題1〉		11
色音（中国 社会科学院研究員）		
インターネットから見た中国大陆の神道情報		
——その分類と分析		
コメント：住家正芳（COE研究員）		
〈発題2〉		28
スティーブン・コベル（米国 西ミシガン大学准教授）		
アメリカで日本の宗教を教えるときの問題・教育方法		
——インターネットの利用を中心に		
コメント：ライアン・ワルド（事業推進協力者）		
〈発題3〉		45
ペトラ・キーンレ（ドイツ マールブルク大学日本研究センター研究員）		
神道・日本文化の研究及び教育に対するドイツ語圏の新たなチャレンジ		
——インターネットはどう活用できるか		
コメント：黒崎浩行（事業推進担当者）		

セッション2

司会：櫻井治男（皇学館大学教授）

〈発題4〉		66
小松和彦（国際日本文化研究センター教授）		
「怪異・妖怪伝承データベース」の構築とその活用について		
コメント：加瀬直弥（21世紀研究教育計画委員会嘱託研究員）		

〈発題5〉	91
ジャン＝ミシェル・ビュテル（フランス 国立東洋言語文化研究所助教授）	
ベルナール・フランク教授のお札コレクション	
——インターネットによる日仏研究協力の事例	
コメント：平藤喜久子（事業推進協力者）	

セッション3

司会：井上順孝

〈発題6〉	110
ジョン・ベンテリー（米国 北イリノイ大学准教授）	
日本書紀のデジタル化	
——利益とチャレンジ	
コメント：真田治子（埼玉学園大学助教授）	

〈総合討議〉	130
司会・コーディネータ：井上順孝	

はしがき

井上順孝

この報告書は、文部科学省21世紀COEプログラム国学院大学「神道と日本文化の学的研究発信の拠点形成」による研究の一環として行われた第4回国際シンポジウムの結果をとりまとめたものである。このシンポジウムは、同プログラムの第Ⅲグループの研究目的の一環として、平成14年度以来毎年度開催されている。

過去3回のシンポジウムのテーマは、「各国における神道研究の現状と課題」（平成14年度）、「〈神道〉はどう翻訳されているか」（平成15年度）、「神道の連続と非連続」（平成16年度）である。シンポジウムでは、一貫して国内外の神道研究者のネットワーク形成と研究成果の情報発信を目指しているが、今回はとくに神道についての教育という視点を導入したことが新しい点である。神道研究を国際的に展開するための拠点は、国学院大学のCOEプログラムによって確実に形成されてきているが、インターネットが研究・教育の実施に際して、格段の影響をもつようになっている今日、それを視野に収めた研究拠点の形成が強く求められているという認識をわれわれは抱いている。

平成17年3月から、改訂・英訳『神道事典』（Encyclopedia of Shinto、略称EOS）のオンライン公開が開始された。（<http://eos.kokugakuin.ac.jp/modules/xwords/>を参照）編集作業が終了したものから、順次サーバー上にアップロードされており、平成19年3月にはもとの事典の本文にあたる部分のすべてがアップロードされる予定である。EOSは、新たに作成された多くの画像、音声、動画をリンクさせており、英語圏や英語を高等教育に用いている国における教育には多大な影響をもたらすと予測される。

そうした状況を考慮し、このシンポジウムには教育という視点がつけ加えられたのである。神道研究、あるいは神道文化に関する教育の国際的な広がりという展望からするなら、基本的な文献、史料のオンライン化とともに、最新の研究成果のオンライン化も求められる。そして基本文献も研究成果も、日本語のみならず、英語をはじめ多くの言語に翻訳されることが強く望まれる。

数行でまとめられるこのような目標は、しかしながら、実際には気の遠くなるような膨大で果てしない作業の積み重ねを要する。ただ、幸いなことに1990年代以降、日本にも急速に広まったインターネットを機軸とする新しい情報メディアは、共同の研究、プロジェクト遂行などを、従来と比較にならないほどやりやすくしている。この新しい情報環境を最大限に活かすというのは、仏教研究などに比べればかなり少数の研究者によっておこなわれている神道研究にとっては、是非とも採用しなければならない手段である。

シンポジウムにおいては、すでにそうした公開作業を先駆けている国際日本文化研究

センターの事例の報告があったのをはじめ、国外からは、それぞれの国における現状とともに、今後への期待、要望が数多く述べられた。こうした試みがスタートしたことで、今後の共同研究のあり方はおおいに幅が広まるという認識を参加者は共有できたと確信している。

シンポジウムにおける研究交流をより実のあるものとするため、会議のパネリスト、実行委員が、前日に今回のテーマに関連ある試みをおこなっている神社を訪問した。東京都港区の愛宕神社と千代田区の神田明神（神田神社）である。それぞれの神社では、権宮司、禰宜の方々に、丁寧な説明をいただいた。愛宕神社は早くからホームページ上で神社の案内をしたことで知られ、また神田明神は近くに秋葉原があることも関係するが、IT企業とのつながりが注目されている。

会議の準備等に際しては、毎回のことであるが、COEプログラムを実施する拠点のひとつである国学院大学日本文化研究所の事務課の方々に、準備等でいろいろとお手伝いいただいた。事務課長の矢澤敏司氏、主任の鍋島秋美氏に御礼もうしあげる。また藤吉優、井上俊（国学院大学大学院）、大東敬明（同）、金子香奈里（国学院大学学生）の各氏には、当日のお手伝いをいただいた。これらの方々にも感謝したい。

最後に、第4回のシンポジウムの日程等の概要と実行委員とを以下に示しておく（肩書きはシンポジウム当時）。

第4回神道・日本文化研究国際シンポジウム

テーマ「オンライン時代の神道研究と教育」

日時 2005年9月17日（13時半～17時）、18日（10時半～17時）

場所 国学院大学120周年記念1号館1階 1105教室

9月17日（土）

13:00 挨拶及びシンポジウム趣旨説明 井上順孝

<セッション 1>

司会 ノルマン・ヘイヴンズ（Norman Havens）

13:10～14:30

発題1 色音

「インターネットから見た中国大陸の神道情報——その分類と分析」

コメント 住家正芳

14:40～16:00

発題 2 スティーブン・コベル (Stephen G. Covell)

「アメリカで日本の宗教を教えるときの問題・教育方法

——インターネットの利用を中心に」

コメント ライアン・ワルド (Ryan Ward)

16:10～17:30

発題 3 ペトラ・キーンレ (Petra Kienle)

「神道・日本文化の研究及び教育に対するドイツ語圏の新たなチャレンジ

——インターネットはどう活用できるか」

コメント 黒崎浩行

18:00～ 懇親会 (院友会館 3階大会議室)

9月18日 (日)

<セッション 2>

司会 櫻井治男

10:30～11:50

発題 4 小松和彦

「「怪異・妖怪伝承データベース」の構築とその活用について」

コメント 加瀬直弥

13:00～14:20

発題 5 ジャン＝ミシェル・ビュテル (Jean-Michel Butel)

「ベルナール・フランク教授のお札コレクション

——インターネットによる日仏研究協力の事例」

コメント 平藤喜久子

<セッション 3>

司会 井上順孝

14:30～15:50

発題 6 ジョン・ベンテリー (John R. Bentley)

「日本書紀のデジタル化——利益とチャレンジ」

コメント 真田治子

16:00～17:00

総合討議

司会・コーディネータ 井上順孝

*各発題は30～40分、コメントは10～15分、残りは自由討議

実行委員会

実行委員長

井上順孝（グループリーダー・国学院大学大学院文学研究科教授）

実行委員

Norman Havens（事業推進担当者・国学院大学日本文化研究所講師）

黒崎浩行（事業推進担当者・国学院大学日本文化研究所講師）

平藤喜久子（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所講師）

藤井弘章（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所講師）

遠藤潤（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所助手）

住家正芳（COE研究員・国学院大学日本文化研究所兼任講師）

辻村志のぶ（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所兼任講師）

Erik Schicketanz（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所調査員）

大澤広嗣（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所調査員）

Ryan Ward（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所調査員）

江島尚俊（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所共同研究員）

武井順介（事業推進協力者・国学院大学日本文化研究所共同研究員）